

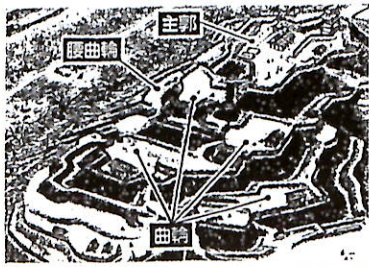
長命館跡

曲輪（郭）

北入口

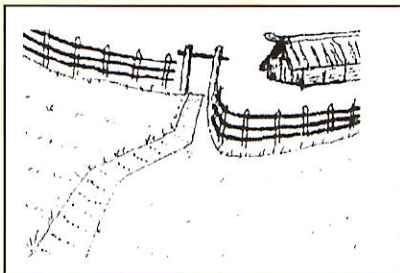
北

堀や土塁で区切り、必要に応じて平らに整地した区画。居住空間や駐屯地として使われた。城の中心は主郭と呼ばれ、戦時は司令部が置かれた。近世には本丸という名称が一般的になる。主郭を中心にくつもの曲輪が広がる。曲輪の外周に細長くめぐらせた空間を腰曲輪と呼ぶ。



主郭を中心に曲輪が広がる杉山城。

①虎口（こぐち）



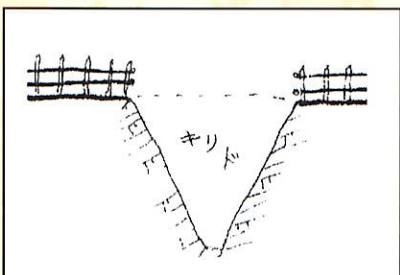
城の出入り口のこと。攻防要点として、発展し、両側の土塁をずらし直進を防ぐ「食い違い虎口」、土塁で四角く囲み側面攻撃が可能な柵形虎口などがある。

②豎堀（たてぼり）



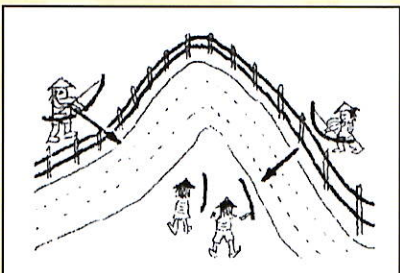
斜面での敵の横移動を制限し、攻撃しやすくするために、斜面の高い所から低い所に縦方向に掘られた堀のこと。

③堀切（ほりきり）



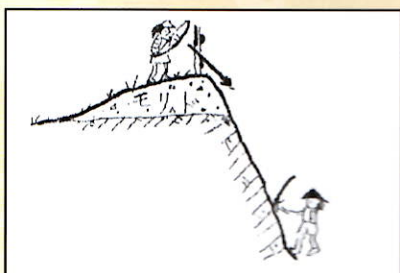
尾根を断ち切るように造られた堀のこと。尾根は、道が分かり易く侵入しやすいので、ここから攻められるのを防ぐために造られた。堀切がそのまま長く伸びて豎堀となる場合もある。

④横矢効果（よこやこうか）



敵の側面に向かって攻撃することを横矢と呼び、そのためのしかけを横矢掛け（かかり）と言う。これにより、死角をなくし複数の方向から同時に敵を攻撃できる。

⑤土塁（どるい）



敵の侵入を防ぐため、土を盛って、壁を造ったもの。山城には、壁の前には水を張らない空堀が造られるのが普通でその土が土塁に使われるのが普通である。

⑥土橋（どばし）



曲輪と曲輪を結ぶ土盛り通路敵が侵入しここを通る場合は目に付き攻撃しやすいと同時に非常時には退路として使用する。



メモ